

お客様へ

ラージシャワー同梱製品の仕様について

本製品の仕様は、説明書本体に記載されている品番の仕様と一部異なります。
本製品の品番(※)をご確認頂き、下記より仕様の相違点をご確認ください。

(※) 本製品の品番は、製品の梱包箱外側、または水栓本体の右側下部に添付のシールからご確認頂けます。

施工説明書 相違点

品名・品番を確認する。

一般用

品名	品番	ベース品番
サーモシャワー混合栓	SK18CS5-13	SK18C-13
ツールプシャワー混合栓	SK11S5-13	SK11-LH-13
ツールプデッキシャワー混合栓	SK710S5-13	SK710-LH-13
シングルシャワー混合栓	SK170S5-13	SK170-LH-13
サーモシャワー混合栓	SK181DS5-13	SK181D-13

寒冷地用

品名	品番	ベース品番
サーモシャワー混合栓	SK18CS5K-13	SK18CK-13
ツールプシャワー混合栓	SK11S5K-13	SK11K-LH-13
ツールプデッキシャワー混合栓	SK710S5K-13	SK710K-LH-13
シングルシャワー混合栓	SK170S5K-13	SK170K-LH-13
サーモシャワー混合栓	SK181DS5K-13	SK181DK-13

仕様・各部の名称

ベース品番とシャワーヘッドの仕様異なります。



適切な使用条件

- SK11S5(K)-13
- SK710S5(K)-13

最低必要水圧：0.05MPa

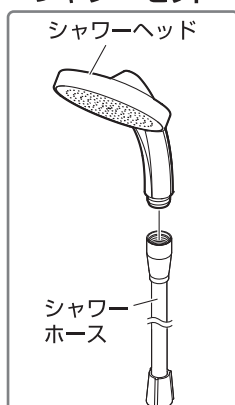
- SK18CS5(K)-13
- SK170S5(K)-13
- SK181DS5(K)-13

最低必要水圧：0.1MPa

梱包内容・本製品の構造

ベース品番とシャワーセットが異なります。

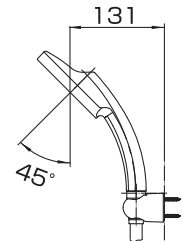
シャワーセット



施工説明書 相違点

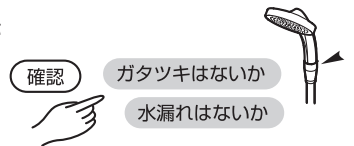
寸法図

ベース品番とシャワーヘッドの寸法異なります。



ガタツキ・水漏れをチェックする。

ベース品番とシャワーヘッドが異なります。

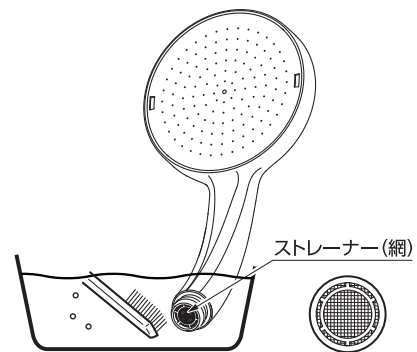


取扱説明書 相違点

ストレーナ・吐水口の掃除方法

ストレーナを掃除する場合

シャワーヘッドをホースから取り外し、取付ネジ部を水につけながらハブラシなどでストレーナ(網部分)を掃除します。



ツールブ混合栓
ツールブ混合栓 (レバー付)

施工・取扱説明書

- 施工・ご使用の前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しく施工・ご使用ください。
●施工後、この説明書をお客様へお渡しください。
●お読みになった後は、お使いになる方がいつでも読める所に必ず保管してください。

本製品について 各部の名称

一般用
湯側ハンドル
吐水口
水側ハンドル
偏心管
仕様により、ハンドルの位置・形状が異なります。
仕様により、吐水口の位置・形状が異なります。
■ 上向吐水口タイプ
■ 整流器(泡沫器)付タイプ
レバー付タイプ
一度調節した温度の湯を一時的に止水できます。
■ 定流量弁付タイプ
定流量ソケット
寒冷地用
凍結のおそれがある場合にハンドルをまわして水栓内部の水を抜きます。
固定コマを使用しています。

施工について 施工に関する安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果(傷害・物損)に結びつく可能性があります。
●施工完了後、試験運転を行い異常がない事を確認すると共に、工事店様は説明書に沿ってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
●施工は、水道法、その他の関係する法規などに従って行ってください。

注意
「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」
「注意しないさい!」(上記の「注意」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。)
「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)
「分解してはいけません!」
「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)

注意
修理技術者以外の方は、水栓本体内部を分解しないでください。
製品に強い力や衝撃を与えないでください。
湯水を逆に配管しないでください。
給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。
同梱の部品以外は使用しないでください。
他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。
(寒冷地用の場合)凍結が予想される場所でご使用になる場合は「寒冷地用の場合(水抜方法)」を参照の上、凍結予防を確実に実施してください。

施工について 適切な使用条件

[水圧について]
給水・給湯圧力
最低必要水圧(流動時) 0.05MPa
最高使用水圧(静止時) 0.75MPa
[給湯機について]
使用最高温度 85℃以下
[水質・用途について]
使用可能水質 水道水及び飲用可能な井戸水
用途 一般住宅用

施工について 施工前のご注意

- 給水は、上水道に接続してください。
●開梱、施工の際は製品に傷をつけないようご注意ください。
●配管内のシールテープくすやゴミをきれいに取除き、必ず通水して配管内のゴミを完全に洗い流してください。

施工について 梱包明細

●本書(施工・取扱説明書)×1
●通水検査をしていますので水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。
本体×1
偏心管×2
Uパッキン×1
吐水口×1
ソケット×2
バックン
逆止弁コア
バックン
逆止弁コア
バックン
定流量弁コア
ソケット
定流量弁付タイプ
仕様により、パッキンの形状が異なります。

吐水口×1
Uパッキン×1
本体×1
偏心管×2
バックン
仕様により、パッキンの形状が異なります。
仕様により、吐水口の形状が異なります。
仕様により、本体の形状が異なります。

施工について 施工手順

主な工具類
■シールテープ: 水栓の偏心管を配管に取付ける際に必要です。
■スパナ・モンキーレンチなど: 水栓のナットが回せる工具。
■使い古しのハブラシなど: 配管掃除ができるもの。
■手袋: ケガ防止のために着用してください。
■タオルなど: ケガ防止や水栓保護のために使用します。
■そうざんなど: 配管中の残り水を拭くのに使用します。
元栓がキー式の場合に必要な工具
■止水栓キー
SAN-EI品番: PR30A (止水栓キー)

1 配管内の掃除をします。

注意
配管内のシールテープくすやゴミをきれいに取除き、必ず通水して配管内のゴミを完全に洗い流してください。(元栓の開閉は下記を参照してください。)
水栓金具内にゴミなどが混入すると止水不良や水栓の故障の原因となり、この場合には有償修理となります。

●元栓を開けて、水を止める方法
元栓ボックス(メーターボックス)のふたを開け、元栓を右に回して閉めます。
※元栓を開める前に給湯機や洗濯機などの使用は止めてください。
※閉栓後は近くの水栓などで給水が止まっていることを確認してください。
※一部の地域では左回しの場合があります。
※元栓がどこにあるかわからない場合は、水道局にお問い合わせください。

■戸建て住宅などの元栓ボックス:
主に玄関やガレージ付近の地面にあります。古い戸建て住宅の場合は道路に円形のキー式ボックスがあったりします。
●キー式
●ハンドル式
止水栓キー SAN-EI品番: PR30A (止水栓キー)
水道メーター(量水器)

■マンションなどの中高層住宅の元栓ボックス:
主に玄関を出た階段の踊り場に鉄の扉があり、電気やガスのメーターと共に水道メーターと元栓があります。お隣と共通のボックス内で元栓の場所がわからない場合は、水道料金の検針票などでご自分の水道メーター番号を確認してください。

逆配管の場合
通常の配管は向かって左側が湯、右側が水ですが、逆配管は向かって左側が水、右側が湯になっています。このような場合には正常に動作しません。下記の方法を行って、逆配管でも使用できるようにしてください。

■逆配管アダプター(別売)による対応
逆配管アダプターを使用する事によって、逆配管を通常の配管にします。
水側
湯側
湯側
水側
通常の配管
逆配管アダプター SAN-EI品番: PU70-3S
※取付方法については逆配管アダプターの説明書をお読みください。

2 偏心管の取付回転を確認します。

偏心管を湯側・水側に分けて配管に取付け、何回転で止まるか回数を確認します。
アドバイス
取付回転数は後で偏心管を仮固定する際の目安にします。
MEMO
湯側
水側
回転
回転
※「ハ」の字になるように

3 偏心管にシールテープを巻きます。
ねじに向かって右向きに、10回程度少し引っ張りながら、ねじにくい込むように巻き、そのまま引きちぎります。
シールテープ SAN-EI品番: PP75-1S (シールテープ)
アドバイス
シールテープをねじ全体に巻く必要はありません。シールテープ幅に合わせ巻きつけてください。
注意
シールテープを逆に巻くと壁の穴に取付けた場合、シールテープがゆるみ、漏水の原因となりますので、図の通りに巻いてください。

4 偏心管を仮固定します。
手順2で確認した偏心管の少ない方の回転数より1回転少ない位置まで、湯側・水側ともまわして止めておきます。
注意
漏水の原因になります。偏心管は絶対に逆方向へゆるめないでください。もしもゆるめてしまった場合は、手順3をもう一度はじめて行ってください。
アドバイス
右記のように偏心管を少し手前で止めておくことで、ねじ込みすぎを防止します。
手順2の少ない方の回転数より1回転少ない位置で止めておく。

5 水栓本体を取付けます。
(1) 水栓本体と偏心管の間に、バックンが入っている事を確認し、水栓本体がまっすぐになるように偏心管を調節しながら手でナットを締付けていきます。
注意
●漏水の原因になります。偏心管は絶対に逆方向へゆるめないでください。もしもゆるめてしまった場合は、手順3をもう一度はじめて行ってください。
●水栓本体は重いので落下などに注意して取付けてください。

(仕様により、一部イラストが異なります。)
仕様により、バックンの形状が異なります。
バックン
逆止弁コア
バックン
ナット
偏心管
※「ハ」の字になるようにまっすぐ
向きに注意
Uパッキン
袋ナット
袋ナット
注意
偏心管は、必ず本体よりも下になるように取付けてください。
■上向吐水口タイプの場合
Uパッキン
向きに注意
本体
■定流量弁付タイプの場合
バックン
定流量弁コア
ソケット

6 ガタツキ・水漏れチェックをします。
接続後、各部にガタツキがないか必ず確認してください。ガタツキの確認後、元栓を開いて各部に水漏れがないか必ず確認してください。水漏れがある場合は、もう一度はじめてやり直してください。最後に座金を壁面に締付けて完了です。
ガタツキはないか
水漏れはないか
確認
座金
座金
座金
裏面へつづく

ご使用について ご使用に関する安全上のご注意

●ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果（傷害・物損）に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

用語および記号の説明

警告 「取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じる事が想定されます。」

注意 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害が発生する危険な状態が生じる事が想定されます。」

「注意しないさい！」（上記の「注意・警告」と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項を守ってください。）

（仕様により、一部イラストが異なります。）

警告

小さいお子様だけのご使用は、避けてください。やけど・けがをするおそれがあります。

注意

朝一番の使い始めの水は飲まずに別の用途にお使いください。しばらく使わないと、水栓内の水は消毒用の塩素がなくなってしまい、におうことがあります。

製品に強い力や衝撃を与えないでください。故障や漏水の原因になります。

分解は、保守・点検の決められた項目以外はしないでください。器具が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

凍結が予想される場所でご使用になる場合は、凍結予防を確実に実施してください。凍結破損で水漏れし、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

●水栓の左側には直接肌を触れないでください。給湯側のため高温になっており、やけどをするおそれがあります。

●高温の湯をお使いのときは、吐水口に直接肌を触れないでください。吐水口は高温になっているのでやけどをするおそれがあります。

（給湯器の設定温度について）
給湯温度は最高85℃まででお使いください。85℃以上でご使用になると器具の寿命が短くなります。なお、誤操作などによるやけど防止のため、42～60℃給湯をおすすめします。

湯をお使いの後は、しばらく水を流してから止水してください。次に使用する際、水栓内に残っている高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

定期的に、配管周りの水漏れや、ガタツキがないか確認してください。劣化・摩耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

ハンドルは、ゆっくり回してください。ハンドルを急に閉めると、配管に衝撃が加わり、水漏れで家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがありますのでご注意ください。やけどのおそれがあります。

日頃から、ときどき吐水口を回してください。吐水口を長期間回さずに使用すると水あかなどが付着し、無理に回そうとすると、水漏れの原因になります。

長期間使用しない時は、配管中の元栓を閉めてください。水漏れなどの事故の原因になります。

（吐水口先端に浄水器を取付ける場合）
止水機構を持った浄水器などは、取付けできません。吐水口部から漏水するおそれがあります。

吐水口先端に重いものを下げたり、力をかけて回したりしないでください。摩耗、変形などでパッキンの寿命が短くなり、吐水時に接合部から微量の水がにじみ出るおそれがあります。

注意

解氷機やアースを水栓に通電しないでください。水栓が発熱で破損し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

（寒冷地用の場合）
凍結が予想される際は、配管と水栓の水抜き操作を同時に行ってください。凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

本体をお手入れする際は、次のものは絶対に使用しないでください。
使用してはいけないもの
●酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類
※特に酸性洗剤はメッキを侵します。
●ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコールなどの溶剤や油類
●クレンザーなどの粒子の粗い洗剤
●ナイロンたわし・メラミンフォームなど
本体の割れや変色変質の原因となります。

洗剤・薬品が本体に付着した場合は、すぐにきれいに拭き取ってください。本体の割れや変色変質の原因となります。

ご使用について 吐水・止水・温度調節

湯を使用する時は水側ハンドルを開いてから徐々に湯側ハンドルを開き、温度および吐水量を調節してください。湯側ハンドルを先に開くと高温の湯が吐水し、やけどをするおそれがあります。

仕様により、ハンドルや吐水口の位置・形状が異なります。

【例】

■レバー付タイプ
一度調節した温度の湯を一時的に止水できます。

注意
使用後は、必ずレバーを吐水側にして、湯側・水側ハンドルを止めてください。

使用後
必ず湯側ハンドルから閉めてください。次に使用すると、器具内に滞留した高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。

高温の湯が出ないときは？
湯側ハンドルをまわしても高温の湯が出ないときは、給湯機（給湯リモコンなど）の給湯温度を42～60℃に設定した後、水栓側の湯側ハンドルをまわしてください。

注意
高温の湯を使用した後は、給湯リモコンを適温に戻してしばらく水を流してください。

（注）水温の高い夏場で吐水量を少なくして使うと瞬間式給湯機の場合、着火しないことがあります。この場合には、水栓側のハンドルを全開に（吐水量を多く）するが、給湯機の温度設定を下げてください。

凍結予防について 一般用の場合

一般用でも凍結のおそれがある場合は、次の処置によって凍結を予防できる場合があります。

●水栓より少量の水を出してください。（目安として1分間に牛乳ビン1本程度）
●配管部などに保温材を巻いてください。
●屋内の窓を閉めるなどして水栓周囲の温度が氷点下にならないようにしてください。
※凍結による破損は保証期間内でも有料修理となります。

凍結予防について 寒冷地用の場合（水抜き方法）

寒冷地用は寒冷地において配管中の水を抜く設備（水抜栓）とあわせて使用する製品です。凍結のおそれがある場合は、下記の方法で水抜きをしてください。

1 元栓を閉め、配管の水抜栓を開けます。
2 湯側・水側ハンドルをいっぱい開きます。

再使用時
湯側・水側ハンドルを開けて配管の水抜栓を閉め、元栓を開けます。

日頃のお手入れ 汚れの拭き取り

製品についた汚れを放置しておくと、汚れが落ちにくくなる場合があります。快適にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。

●柔らかな布で水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。
●汚れが目立つときは、中性洗剤を柔らかな布にふくませて拭き取った後水拭きして、よくしぼった布で汚れを拭き取ってください。

注意

本体をお手入れする際は、次のものは絶対に使用しないでください。
使用してはいけないもの
●酸性・アルカリ性および塩素系の洗剤類
※特に酸性洗剤はメッキを侵します。
●ベンジン・シンナー・ラッカー・アルコールなどの溶剤や油類
●クレンザーなどの粒子の粗い洗剤
●ナイロンたわし・メラミンフォームなど
本体の割れや変色変質の原因となります。

洗剤・薬品が本体に付着した場合は、すぐにきれいに拭き取ってください。本体の割れや変色変質の原因となります。

日頃のお手入れ 吐水口の掃除（整流器（泡沫器）付タイプの場合）

吐水口の汚れを放置しておくと、十分な機能を発揮できないことがあります。快適・衛生的にお使いいただくために、日頃のお手入れをおすすめします。（近所で水道工事があつたり、長期間使用し湯水の出が悪くなった場合にも、汚れの点検・お手入れをおすすめします。）

1 湯側・水側ハンドルをまわし、止水します。
2 整流器本体（泡沫機本体）をはずします。
3 ハブラシなどで網部分を掃除します。

1 止水
（仕様により、一部イラストが異なります。）

2 整流器本体
3 掃除

■部品向き

■泡沫器付タイプ
2 泡沫器本体

■断熱キャップなしタイプ
掃除できません。

再使用時
整流器本体（泡沫機本体）が確実に閉まっているか確認してください。

定期的な点検 可動部分の点検

可動部分が固くて動きが悪い場合は、水あか固着や潤滑剤切れです。放置すると故障の原因になりますので、「保証とアフターサービス」を参照し、修理をご依頼ください。吐水口の点検については下記を参照ください。

日頃から、ときどき吐水口を回してください。（月1回を目安）

吐水口を長期間回さずに使用すると水あかなどが付着し、無理に回そうとすると、水漏れ・異音の発生の原因になります。

吐水口が回らなくなった場合は「アフターサービス」を参照し、修理をご依頼ください。

定期的な点検 配管周りの水漏れ・器具のガタツキ

定期的に、配管周りの水漏れがないか確認してください。（年2回を目安）
定期的に、器具のガタツキがないか確認してください。（年2回を目安）
劣化・摩耗などで部品が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

漏水を確認した場合は、配管中の元栓を開めてください。修理の依頼をされる場合は「保証とアフターサービス」を参照してください。

定期的な部品交換 逆止弁の交換時期（逆止弁付の場合）

逆止弁の交換時期の目安：3～5年
万が一、逆止弁が正常に機能しない場合、状況によっては水栓から一度吐水した水が逆流するおそれがあります。

逆止弁の交換

※仕様により、逆止弁が無い場合があります。
※交換時期は、使用環境などにより異なります。
※逆止弁の交換を依頼される場合は「保証とアフターサービス」を参照してください。

こんなときは 故障？ その前に

修理をご依頼される前に、次の表に従って点検してください。

現象	点検項目	処置
流量が少ない	ゴミつまりはありませんか。	吐水口の掃除をする。参照：吐水口の掃除
低温しかでない	給湯機から湯がきていますか。	給湯機の設定温度・作動を確認する。参照：給湯温度の設定
温度調節がうまくできない	ゴミつまりはありませんか。	吐水口の掃除をする。参照：吐水口の掃除
	給湯機から湯がきていますか。	給湯機の設定温度・作動を確認する。参照：給湯温度の設定

以上の点検を実施されても、不具合がなくなる場合はお手数ですがお買上げの販売店（工本店）に修理をご依頼ください。

●修理される方は次の表に従って点検してください。

現象 ハンドル部から水が漏れる

点検項目

- キャップ
- なべ小ねじ
- ハンドル
- パッキン押え
- 三角パッキン
- パッキン受
- スピンドル
- ケレップ
- ※仕様により、一部イラスト・部品構成が異なります。

固定コマ
寒冷地用は固定コマを使用しています。

漏水した場合の処置

漏水した場合は、配管中の元栓を開めてください。

元栓の閉め方

元栓ボックス（メーターボックス）のふたを開け、元栓を右に回して閉めます。
※元栓を閉める前に給湯機や洗濯機などの使用は止めてください。
※閉栓後は近くの水栓などで給水が止まっていることを確認してください。
※一部の地域では左回しの場合があります。
※元栓がどこにあるかわからない場合は、水道局にお問い合わせください。

■戸建て住宅などの元栓ボックス：
主に玄関やガレージ付近の地面にあります。古い戸建て住宅の場合は道路に円形のキーボックスがあったりします。

■マンションなどの中高層住宅の元栓ボックス：
主に玄関を出た階段の踊り場に鉄の扉があり、電気やガスのメーターと共に水道メーターと元栓があります。お隣と共通のボックス内で元栓の場所がわからない場合は、水道料金の検針票などでご自分の水道メーター番号を確認してください。

●キー式
●ハンドル式

止水栓キー SAN-E品番：PR30A（止水栓キー）
水道メーター（量水器）
水道メーター（量水器）

アフターサービス

（補修用性能部品の供給期間）
この製品の補修用性能部品（機能維持のために必要な部品であり、使用期間中に取替える可能性が高いもの）の供給期間は製造中止後10年です。

（修理の依頼と部品交換の依頼について）
●修理依頼と部品交換依頼先：
お求めの販売店（工本店）又は当社
●連絡していただきたい内容：
■住所、氏名、電話番号
■品番、品名
■お買上げ（お取付け）年月日
■故障内容、異常の状況（水漏れ箇所の説明など）、部品交換の依頼
■訪問希望日

品番を確認するには、水栓の右側表面に貼付のシールをご確認ください。

（例）品番 K11-LH-13 1234567890 G 製造番号

●当社の修理および部品交換料金は「技術料」＋「部品代」＋「出張料」で構成されています。
「技術料」
診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用。
「部品代」
修理および部品交換に使用した部品代。
（無料修理で交換した古い部品・製品は当社の所有になります。）
「出張料」
製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用。

（部品の交換）
●止水部やパッキンが摩耗・劣化すると水漏れの原因となります。この場合、該当部品の交換が必要です。

（部品のご購入や修理の依頼、ご相談は）
●まずは、お求めの販売店（工本店）へご相談ください。ご不明な場合は最寄りの当社営業所へお問合せください。

SANEI 本社 〒537-0023 大阪市東成区玉津1丁目12番29号
株式会社 三栄水栓製作所 お客様相談室 大阪 ☎(06)6976-8661
東京 ☎(03)3683-7496
フリーダイヤル ☎0120-06-9721

東京支店 ☎(03)3683-7471 横浜営業所 ☎(045)929-0331
名古屋支店 ☎(052)800-8688 静岡営業所 ☎(054)236-1115
大阪支店 ☎(06)6972-6981 金沢営業所 ☎(076)268-7751
札幌営業所 ☎(011)782-5353 京都営業所 ☎(075)605-5761
盛岡営業所 ☎(019)605-7301 神戸営業所 ☎(078)843-9231
仙台営業所 ☎(022)258-6251 広島営業所 ☎(082)922-3631
郡山営業所 ☎(024)931-1377 松山営業所 ☎(089)905-7866
新潟営業所 ☎(025)281-1291 福岡営業所 ☎(092)674-1230
つくば営業所 ☎(029)850-5661 熊本営業所 ☎(096)385-7161
さいたま営業所 ☎(048)851-2600 沖縄営業所 ☎(098)869-0890
東京西営業所 ☎(042)582-7141

ホームページ <http://www.san-ei-web.co.jp>